

千葉県に侵入した外来のスジエビ

にぎわい調査の対象種のスジエビは、透明な体に黒い帯模様が入り、川エビの名でも知られています。千葉県ではスジエビは一般保護生物Dとして選定されています。近年このスジエビにとてもよく似た外来のスジエビ(チュウゴクスジエビ)が国内に侵入し、各地で定着していることがわかっています。実は県内でもチュウゴクスジエビが野外で確認されました。今回は、チュウゴクスジエビの侵入経路や在来のスジエビとどのように見分けるか紹介したいと思います。このテーマを扱ったコラムは、団員の方であればにぎわい調査団ホームページ(https://www.bdcchiba.jp/monitor/houkoku/h2018_07.html)でもみることができます。

1. 釣り餌として持ち込まれたチュウゴクスジエビ

海釣りをする方は知っているかもしれませんが、メジナやクロダイなどを釣るときの活き餌として、モエビの名前で淡水エビが売られています。これは大半が中国や韓国で採集されたもので、右の図のように様々なルートで日本に輸入されています。このモエビの中にチュウゴクスジエビが混在し、1970年ごろから生きたまま輸入されていることがわかっています。釣りで残ったモエビを放流したことで、野外に定着してしまったと考えられます。国内でチュウゴクスジエビが最初に確認されたのは2005年静岡県のため池で、現在までに宮城県、東京都、千葉県、神奈川県、兵庫県、岡山県、広島県、島根県、香川県、福岡県、大分県、佐賀県から報告されています。しかし、まだ調査や報告がされていないだけで、ほかの地域でも生息している可能性は高いと考えられます。

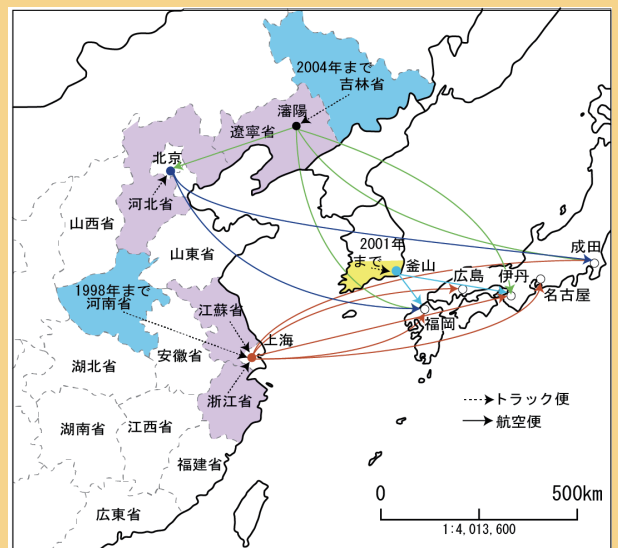
2. スジエビとチュウゴクスジエビの違い

スジエビは日本全土、シベリア、朝鮮半島に分布しています。一方、チュウゴクスジエビは中国やミャンマー、シベリア、サハラに分布しています。スジエビとチュウゴクスジエビはともにスジエビ属のエビで、生息環境も同じ、ともに大きさ5cmほどで見た目もよく似ているので、注意しないと見分けがつかずません。写真の左がスジエビ、右がチュウゴクスジエビです。とてもよく似ていることがわかんと思います。

見分けるポイントとして、胸の模様があります。横から見たとき、スジエビは「ハ」の字を上下逆にしたような2本の縞があり、その中に斜めの線が入ります。チュウゴクスジエビにも逆ハの字はありますが、尾に近いほうの縞が鉤状に曲がっています。また斜めの線は入りません。

3. チュウゴクスジエビの発見報告を募集!

このチュウゴクスジエビが千葉県にどの程度侵入しているのか、まだわかっていません。現在までに木更津市のピオトープ、手賀沼の周辺水路で確認されています。しかし、他の場所にも生息している可能性があるため、県内での情報の収集が重要です。そこで、団員の皆様からチュウゴクスジエビの発見報告を募集したいと思います。写真は識別ポイントである胸の部分をおさめてもらうこと、できれば複数個体撮ってもらえるとより確実に判断できます。同定に困った時も、写真を送っていただければこちらで確認できます。皆様からの報告をお待ちしています。

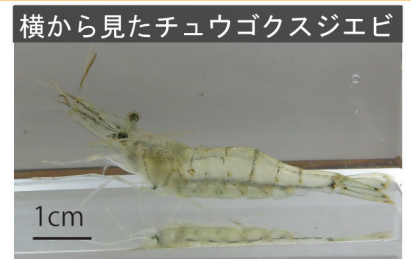


モエビ(チュウゴクスジエビ)の産地および輸入ルート(丹羽2010を参考)

丹羽伸彰(2010) 外来輸入エビ、ワカリヌメエビ属エビ(*Neocaridina* spp.)およびPalaemonidae spp.の輸入実態と国内の流通ルート. *CANCER* 19: 75-80.



横から見たスジエビ



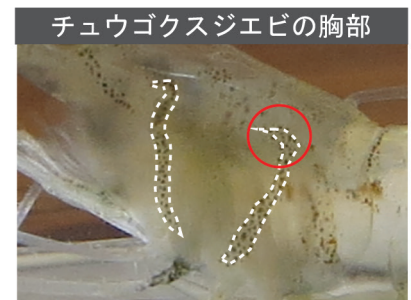
横から見たチュウゴクスジエビ

大きさやタテ縞模様はほぼ同じ
見分けるポイントは胸部の模様



スジエビの胸部

直線状の縞



チュウゴクスジエビの胸部

特徴的な鉤状の縞

スジエビとチュウゴクスジエビの見分け方

古典文学と里山の生きものたちの世界

第二回 ヘクソカズラ *Paederia scandens* アカネ科

詩人 大島 健夫

日本の古典文学には、様々な生きものたちが様々な形で登場します。かつてこの国の人々はどのように生きものとかかわり、その姿に何をしていたのでしょうか。この連載では、今年度から生物多様性センターに嘱託職員として勤務している、ポエトリー・スラム W 杯日本代表詩人の大島健夫が、^{いのち}生命のにぎわい調査団の皆様を過去の世界にご案内します。

様々なものに絡みついて生育し、切ったり揉んだりするとくさい臭いがするところから、漢字にすると「屎屎葛」というなかなか強烈な名前がつけられているヘクソカズラ。夏には中心だけが紅色の白い花を咲かせ、秋以降には橙色の可憐な実をつけます。

この植物、八世紀後半に成立した、かの『万葉集』にも、既に「屎葛」という名前で歌に詠まれています。^{くそかずら}
^{たかみやのおおきみ}高宮王という人の詠んだ、

そう莢^{きょう}に 延^はひおほとれる 屎葛 絶ゆることなく 宮仕へせむ (*1)

というのがそれです。

そう莢というのはサイカチのことだとみなされることが多く、とすればマメ科ジャケツイバラ亜科のトゲの多い落葉高木です。そういうような木にヘクソカズラがまとわりついてる様子を、お上と自分との関係にたとえ、自分もそんなふうについていつまでも絶えることなく宮仕えしてくんだぞう、と歌いあげているわけです。

作者の高宮王というのは、謎めいた人物です。

この人の作品は、このサラリーマン川柳のような屎葛の歌を含めて二首が万葉集に収録されていますが、実は生没年はおろか、経歴についても「名前に王がついているから皇族らしい」という、ものすごく初歩的なことくらいしかわかっていないのです。人物像が明らかでないままに歌だけが遺っています。トゲだらけの木にしがみつく「屎葛」であることを願うこの歌に込められた彼の心情は、果たしてどのようなものだったのでしょうか。

(*1) 新日本古典文学大系「万葉集」(岩波書店)による



<これからの季節に観察できる生きもの>

○調査対象種：ミヤコドリ、オオバン、モズ、リンドウ、イチョウ(黄葉)、イロハモミジ(紅葉)

○調査対象種以外は種の同定が難しいため、できるだけ写真の添付をお願いします。

* 渡りのシギ・チドリ類、両生類、爬虫類など

* 各種昆虫(とくにバッタ、コオロギ、カマキリ)

* 希少生物(生息・生育数が減少している生物)や、外来生物の報告も受け付けています。

<県立中央博物館 秋の企画展のお知らせ>

房総丘陵はすごい 調べてびっくり、新発見の数々

期間：10/27(土)～12/24(月・休)

世界最大のトドの化石を発見し、新種の生物を発見し、さらに絶滅種を再発見。これらは未踏の秘境ではなく、千葉県房総丘陵を探検した中央博物館の調査団による実績です。地学、動物、植物の各分野にまたがる重点研究の成果を紹介します。

【関連イベント】

● 講演会 11月23日(金・祝) 房総丘陵のここがすごい

● ミュージアム・トーク(展示解説) 入場料必要

毎週土曜日、祝日 (11:00～11:30 / 14:30～15:00の2回)

詳細は：<http://www2.chiba-muse.or.jp/www/NATURAL/contents/1521934167480/index.html> まで